

協働パイロット事業（H21）企画提案書

団体名：特定非営利活動法人 生きる生きる

1. 事業の名称

平成21年度 ふるさとコンサートとナラオ交流キャンプ

1. 事業方針（市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください）

昨年、「生きる生きる」の活動を始めるにあたって、ある人が「楢尾青少年の家」「大間ツリーハウス」「峰山小学校」の3ヶ所を紹介してくれた。そして楢尾青少年の家での研修キャンプ、コンサート、大間での定例会を実施し、峰山小学校での音楽・図工授業や地区体育大会の参加などを通して、静岡市の山間地の魅力と問題点を深く知る所となった。過疎化する楢尾でコンサートを実施して、継続してほしいという要望が多く、「限界集落へのコンサートの出前」というひとつのテーマが浮かんだ。また、フリースクールの生徒（清水区・中学生男子）をたびたび活動に同行したところ、「日本じゃないみたいだ」と強い関心を持った。静岡市の山が他県に通り抜けする幹線道路を持たないため、人の流れは山から平野部（市街地）への一方通行のようである。市街地在住の子どもたち、親子がこの交流キャンプに参加し、静岡の山の産業・文化を「お年寄りの知恵」として学び、変化に富む美しい自然を保護し、互いに「理解しあう」という最高の交流ができ、コンサートの実施という喜びの共通体験をする、という少し欲張りな事業を企画した。

1. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

この事業で「NPO法人生きる生きる」は、全体のコーディネーターと、コンサートの主催者・出演者という大きく2つの役割を持つ。

認証から1年のNPO法人なので知名度が少なく、しかも8月のコンサート・キャンプまでの期間が短いので、静岡市内の小中学校児童・生徒、保護者等への広範な告知をお願いしたい。協働事業であることで、参加児童・生徒が学校の総合学習などで発表できることを期待する。

2. 成果目標（できる限り具体的に表現してください）

この事業は「NPO法人生きる生きる」「参加者」「地元高齢者」が場面ごとに役割交代をすることに特長がある。

- キャンプでは、参加者が夏は川遊び、カブト虫探し、冬はやまびこ体験、夜空の観察などを通して、山の魅力、藁科川流域の魅力を知る。
- 野菜もぎ・調理を通じての食育、竹食器作りなどでは物の大切さを教えてもらう「知恵の伝承」
- 冬のキャンプは暖かさに慣れている市街地の市民にとって貴重な体験である。防寒の工夫、「おしくらまんじゅう」などの遊び、夜空の美しさは強い印象を与える。
- コンサートでは、童謡、季節の歌を中心にみんなが口ずさめる歌、子どもたちに残したい歌を演奏する。年齢の差を越え、一緒に歌うことで一体感を持つ。
- コンサート準備や受付、座席への案内を子どもたちが受け持ち、主催者スタッフを体験する。
- シイタケ、お茶栽培の現場を知ることにより、地産地消を促す効果を期待できる。

2. 事業計画

静岡市葵区大川地区の、楢尾、崩野、大間などの集落に住む高齢者を対象に生のコンサート「ふるさとコンサート」を出前し、併せて、市街地在住の子ども、親子との交流を図る「ナラオ交流キャンプ」を実施する。

1. 事業目的 この事業は、市街地の子どもたちにとっては環境問題、食育、野外活動、音楽鑑賞などの総合教育となり、山間部高齢者にとっては「知恵や経験を子どもたちに伝承する喜び」「日頃静かな山里が賑わう喜び」「生のコンサートを鑑賞しプロ歌手と合唱する喜び」になり、また活動を継続することによって藁科川流域の産業活性化を促す効果も期待できる。

2. 事業対象 大川地区の高齢者、市街地の子ども、親子、一般市民

3. 会場 静岡市葵区楢尾 楢尾青少年の家とその周辺

4. 事業期間 平成21年7月～平成22年1月

5. 内容

- (1) 会場周辺の農家の協力を得るための事前打合せ
- (2) キャンプ参加者の理解を深めるための事前研修会開催
- (3) キャンプ・コンサートの実施
- (4) まとめの会開催

以上、(1)～(4)を夏・冬の2回開催する。

3. スケジュール

7月 上旬 楢尾で事前打合せ

20日前後 事前研修会（市内生涯学習センター）

8月 1日 午後1時現地集合 ナラオ交流キャンプ開始 学校内、周辺探索 親ぼくバーベキューなど

2日 午前5時起床 野菜もぎ 竹食器作り 午前10時 ふるさとコンサート開演（1時間）

流しそうめん 清掃 午後1時現地解散 オプションで川遊び（湯の島温泉付近）

下旬 まとめの会（市内生涯学習センター）

10月 上旬 広報紙掲載原稿提出

11月 中旬 募集開始

12月 上旬 楢尾で事前打合せ

12月 20日前後 事前研修会（市内生涯学習センター）

平成22年

1月 中旬までの土日 コンサートと冬キャンプ開催

1月 下旬 まとめの会

2月 スタッフ反省会

3月 報告書作成

4. 実施体制および主要スタッフの経歴

スタッフ

- 手塚あずさ 当NPO代表。ピアニスト。作曲家。イラストレーター。俳人。
池谷尚志 当NPO副代表。介護施設勤務。
浅井恵理子 当NPO事務局長。声楽家。
森 久子 当NPO理事。檜尾在住。茶農家。食育指導者。
三倉友香 当NPO理事。保育士。静岡県青少年指導者中級。日赤の救急処置講座修了。
伊藤由紀乃 当NPO理事。音楽講師。
小林紀子 当NPOスタッフ。音楽療法士。音楽講師。
鈴木桃子 当NPOスタッフ。声楽家。藤原歌劇団準団員。
加藤和樹 当NPOスタッフ。高校教諭。
他 大学生ボランティア数名（看護学生を含む）を予定。

5. 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

当NPO法人は認証から1年、と短いですが、代表の意気を感じて集まったスペシャリスト集団と言える。コンサート開催は、リサイタルから施設慰問、野外、学校、他ジャンルとのコラボなど経験豊富で、対象、状況に合わせて良質の演奏を提供できる。キャンプも県青少年指導者（今年度中に上級取得予定）の三倉友香がおり、昨年度に現地スタッフ研修キャンプを2回実施している。

また、スタッフの森久子は檜尾の茶農家で、現地コーディネーターの役割を果たしている。キャンプ、食育指導の経験も多々あり、川遊びを通じた「水の大切さ」のプログラム、檜尾で生まれ育ったご主人・息子さんの協力も得た山の遊びのプログラムを計画している。

代表は大川地区と10数年に及ぶ交流があり、現地との意思疎通に支障はない。1月10日に実施した「ふるさとコンサート in ならお」では、参加者16人中15人がアンケートに「生まれて初めて生のコンサートを聴き、感動」「また来てほしい」と回答を寄せてくれた。この活動が単発でなく、継続された時、初めて様々な効果が生まれるであろう。

協働パイロット事業 (H21) 見積書

団体名：特定非営利活動法人 生きる生きる

企画のタイトル：ふるさとコンサートとナラオ交流キャンプ

項目	金額	説明
楢尾青少年の家使用料	40,000	30数名の参加見込み
打合せ、まとめの会会場費	6,000	
印刷費	54,000	チラシ・ポスター、参加申込書、キャンプのしおり、コンサートプログラム 等
人件費	90,000	スタッフ・ボランティアの交通費、食事、楽器運搬、出演者謝金を含む
ボランティア用Tシャツ	12,000	2400円×5
協力農家にお礼	30,000	
事務費	5,000	
小計 A	237,000	
消費税 B = A × 0.05	11,850	
合計 A + B	248,850	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途
120,000		食材費、保険
キャンプ参加者/ 大人3000円10名 子ども2000円15名		

企画提案の概要書

提案団体名	特定非営利活動法人生きる生きる
企画案のタイトル	ふるさとコンサートとナラオ交流キャンプ
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内でご記入ください。)	<p>静岡市葵区大川地区の楯尾、崩野、大間などの集落に住む高齢者を対象に生のコンサートを出前し、併せて、市街地在住の子ども、親子との交流を図るキャンプを実施する。</p> <p>その1泊2日の間に、山間地高齢者と市街地参加者はサービスの「供給者と受益者」の役割を何度か交代し、お互いの理解を深める。</p> <p>この体験は子どもにとっては環境問題、食育、野外活動、音楽鑑賞などの総合教育となり、地元高齢者にとっては知恵や経験を子どもたちに伝承する喜び、日頃静かな里山が賑わう喜び、生のコンサートを鑑賞し、プロ歌手と合唱する喜びとなる。</p> <p>活動の広報、実施、継続により、藁科川流域の景観の美しさ、茶・シイタケの質の高さなどを広く知っていただく。</p> <p>また、夏と冬の2回実施することは以上の効果を何倍にも高めることになる。</p>
金額	248,850円

《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ html で表現できない複雑な表現方法はご利用できません。